Rotary International 2021-22 会長　シェカール・メータ（インド）	国際ロータリー第２６７０地区 ガバナー　東　邦彦　（中村RC）
テーマ Serve to Change Lives 『奉仕しよう みんなの人生を 豊かにするために』	<第４７年度> **丸亀東ロータリークラブ** 会長　片岡 浩昌　　幹事　前山 佳裕

２０２１年７月２７日(火)

2021~2022年度　第４７年度　第４回　通算第2209回例会

役員委員長就任挨拶
＊会計　　神原さん
＊会員増強　　原さん
＊プログラム　森さん

【会長報告】片岡 浩昌 会長

◆　なし

【幹事報告】前山 佳裕 幹事

◆　なし

【プログラム】 ★ **会 員 卓 話 （ 和田 誠 会員 ）**

会員卓話をさせて頂きます。　有限会社和田ダッキングの和田です。
貴重なお時間を頂きこのような場所で発言させていただくことが経験がないのですが、つたない卓話になりますが宜しくお願いします。
簡単に会社概要を説明させて頂きます。
有限会社和田ダッキングは 2002年10月10日（19年前）に創業させて頂きました。　当時私は34歳でした。
会社の仕事内容の紹介ですが、
主に、造船業とプラント工事などの保冷、防熱工事全般をさせて頂いております。
防熱工事とは、熱が発生する箇所に熱の放射を防ぐ工事の事をいいますが、戦後は熱を持つ所に火傷防止など布などを巻いていたと祖父から聞かされたものでした。
その後に続く材料は御存じだと思いますが、アスベストを使うようになりましたが、じん肺、排気種という、やっかいな症状があらわれ大問題となり、とってかわり、グラスウールから高価なセラミックという材料が開発されました。
それらの材料の発展はロケット、に使われ宇宙開発で発展してきました。
今現在は高温に対する6000度位に耐える材料は開発されていますが、今手掛けているマイナスに耐えられる材料は200度位しかありません。
今、話題になっている温暖化の影響で火力発電からクリーンなＬＮＧ、電気又は水素からゆくゆくはアンモニアに取って変わろうとしております。
今現在手掛けている船ですが、ＬＰＧからＬＮＧに取って変わろうとしております。ヨーロッパなど航行するためには、ＬＮＧを燃料とした船しか航行が出来ない風潮ができております。
ＬＮＧ、ＬＰＧは通常は気体ですが液体にするためにはマイナス126度まで下げて液体にして船で運んできます。　マイナス126度を維持するためにはウレタンという材料を使い、タンクや配管の保冷工事を主に施工します。
語弊ですが先程述べた戦前に使った布が今のウレタンぐらいのレベルなのです。
次世代に変わる燃料がありますが、それを保護する材料が伴なっておりません。
今現在、新に話題になっている水素船を手掛けていますが、新たにマイナス253℃との課題ができ、四苦八苦しております。

~四つのテスト~	1．真実かどうか	2．好意と友情を深めるか
言行はこれに照らしてから	3．みんなに公平か	4．みんなのためになるかどうか

なぜ四苦八苦しているかといいますと、水素はＬＮＧよりもさらに低温で薄い甲板だと液体水素が漏れるリスクがあり鉄板の収縮率の大きさからまだ確立した技術が無く、マイナスになると外気温との温度の差でコールスポットと言うものができ、漏れている所に氷の塊ができて、それを抑え込むのが大変なのです。今、その技術的なものの確立に励んでおります。
私どもの技術だけでは、限界があり、新しい素材の開発が盛んになり発展していくと確信しており、わが社も保冷と言いう分野に力を注いでおります。
その他に排ガス管の外面に防熱材を巻き、仕上げにブリキ板をはる工事もさせて頂いており、又ビル工事の防熱という工事やダクト工事や、神戸では潜水艦の防熱防音の全般を受注させて頂いております。
取引会社は主に川崎重工様、今治造船様、来島ドック様、三菱造船様、鈴木造船様など御取引きさせて頂いております。
本社は今は、神戸ですが、10月から丸亀に移す予定にしております。
会社概要はここまでで、時間がまだまだあるので申し訳ありませんが私の生い立ちから話すことになりますが宜しくお願いします。
なぜ私がこのような仕事をすることになったかとお話しすると、私どもは御爺さんの時代から造船工事に携わり、私の父親と私で３代目になります。
聞こえは３代目と言いますが、それまで従業員もいなくて家内てきな感じでした。
高校の時ですが、造船が不況になり一時私の父親の仕事が無くなり、それまで使っていたトラックを改良して果物の行商をしだしました。
その当時は団地に住んでいて私の父親は果物や野菜を売り、学校が終わるとお米を担いで団地の階段で配達するのが私の仕事でした。　その時に学びました。世間で生きていくのが、大変だと子供なりに痛感しました。　なかなか。果物や野菜が売れず、夜ごはんは余った材料で夜ご飯でした。（でも楽しいひと時でした）　時には弁当箱を開けると中身がサツマイモをふかしたものが３本だけ入っていて、友達たちに笑われたものです。その時に思わず妹のおやつを間違えて持ってきた。とうその言い訳をしたことは忘れません。父親は余った果物を勿体ないと言い、よく食べていてそのために糖尿病になってしまいました。
高校を卒業して家には、お金がないので、私は卒業訓練学校に通い、情報処理という分野でそこで経理の勉強をして就職をしました。その頃に一緒に勉強したクラスメートの中には税理士の先生になった人もいて、私は字が下手で経理に向いてないことに気づくのが遅く、会社も長続きしませんでした。　それから３年程アルバイトをしながら生活をしていましたが、23歳の時に知り合った女性がいまして、結婚したいと疎遠になっていた父親に相談したところ、家の仕事をしないかと言われ、わたしは父親の仕事をすることとなりました。
私と父親二人でよく日本全国のプラント工事の出張工事に年賀ら年中出張に行ったり、また、海外での仕事もあり、ご存じだと思いますが、月の砂漠に出てくるアルゼリアなどです。
仕事内容は砂漠の真ん中で油田発掘のプラントの仕事でした。毎日が昼は40℃以上、夜は氷点下まではいきませんが、一けた台の温度で大変な気候で砂漠の中ですから、娯楽もなく、本当に飛散な生活でした。昔でいう般場と言うかタコ部屋みたいな生活です。その生活は休憩時間に水の配給があり、配給車から直接ヘルメットに水を入れてもらい、ヘルメットから水を飲んだらよくお腹を下しました。　配給の中にコーラがあり、瓶にせんをしているのですが、どうしてか中にはボウフラが泳いでいる。ことが多々ありました。
食事は日本人向けの味付けでしたけど、日本に帰ってくると食事は本当に美味しいと涙して食べたのも思い出されます。
25歳頃には造船業も忙しくなり、出張もなく神戸で仕事ができることが多くなり幸せな時を過ごしていましたが、幸せな時が一遍する出来事がありました。
それは、1995年（平成７年）1月17日の阪神大震災です。
私どもまた多くの生活が一遍しました。

せっかく順調に行っていた仕事場は造船所のクレーンなど倒壊しており、神戸で船を作ることは出来なくなり、私どもは建造していた船とともに単身で香川県に来ました。
なんでこんなに辛いことばかりなのか恨んだこともありましたが生活をするために我武者羅に働き、4年後には、家族を宇多津町に呼ぶことができました。
その後又大き出来事が起きました。
父親が最初、咳がひどくて寝れないと言い病院に行くとすぐに大きな病院を紹介されました。検査をすると医者からは小細胞癌と診断され即入院となりました。(昔のアスベストが原因です)
その当時はアスベストの因果関係が分からなく、父親は御客様に迷惑が掛かるから、表ざたにしないようにと言いました。後5年後になっていれば少しは変わった状況になっていたと思われます。先生からは小細胞癌は手術が出来なく、抗がん剤治療しかないといわれ辛い治療に入りました。あんなにガタイの良い父親がみるみる痩せていき髪の毛も抜け落ち、見る見るうちに御爺ちゃんになっていきました。　抗がん剤の治療が終わると家に帰ってきて体力が付くと大好きなゴルフに行くのを楽しみにしていました。
抗がん剤の治療が何回か進むと点在してた小さな粒の癌が少なくなりレントゲンを見た父親も嬉しそうで辛い抗癌剤の治療に励んでました。半年以上が経過するとお医者様から家族が呼ばれ僕と母親とで話しを聞きました。内容はこうでした。レントゲンを見せられ、あれだけあった小さ粒の癌が綺麗になっていましたが、ある力所のある部分だけは消えていませんでした。それは、肺の部分で小さな粒が3㎝ほどがあり、脳のある部分に小さな粒が転移していました。医者からはこれ以上は治療する抗がん剤の種類が無いと言われ、治療のすべが無く長くて半年の余命宣告を受けました。　その余命宣告を父親に言うべきか、言わないほうがいいのか、すごく悩みました。　父親に伝えなければ後悔するし、父親もそれを望んでると思い、泣きながら、医者から言われた余命を告げると、父親は、そうかと一言発するとうなだれましたが、家族に、そうか医者がそう言ったかと言い、心配掛けたと言い、クヨクヨしててもしょうがないから今からゴルフの打ちっぱなしに行くぞと言い、家族全員が泣き笑いに変わったを今でも忘れません。　その時の父親の心境を考えると何とも言えないやるせなさと父親としての強い威厳と言うものがすごく感じさせられました。それから父親は医者が言った余命宣告の半年程で亡くなりました。　享年59歳です。　赤いちゃんちゃんこのお祝いをすることができませんでした。　その後、それ以上に大変な事が待ってました。　それは家に借金が約2000万円あることを知らされました。弟は18歳離れていて大学生でしたので、その授業料とか、うちの母親は年金も入っていなく収入もありません。私どもの家族もありましたので落ち込んでもいられず、また、我武者羅に働きました。だからその当時の事は余り覚えていません。
ようやく借金も返し終わり、今では母親に役員としての生活費を出せており、弟は大学を卒業して私の右腕として励んでおります。
ただ一つだけうまくいかなかったのは家族と言いう大切な物を失ってしまいました。
しかし運命の出会が46歳の時にありました。
なぜ運命だといいますと。今の妻との出会いです。名前が私の母親と同じ名前と誕生日が私が5月28日ですが妻は8月25日で私の誕生日の反対から読めます。
近年は妻と出会てからは、運気も変わり会社も順調に進み、又2年前に以前私どもの仕事上対立していた会社があり、社長は跡取りがいなくて会社を買ってくれないかと私に相談がありました。私にとっても言いお話で今現在は会長にいてもらって色々な事を教わっております。
今現在は父親が死んで従業員は誰もいない時に比べたら、現在2社合わせて40人を超えて下請けも増えてきております。
又妻と出会えなければ名誉ある丸亀東ロータリークラブに入会もできておりませんでした。
妻はおばんざい屋「笑家」を始め、今は、コロナ禍で苦しいですが、皆様に助けられて商売をさせて頂いております。本当に皆様には感謝しかありません。

～四つのテスト～	1．真実かどうか	2．好意と友情を深めるか
言行はこれに照らしてから	3．みんなに公平か	4．みんなのためになるかどうか

ただここまで順調だと会社の経営と言いう不安が増しております。でもロータリーに入会させていただいたのも運命だと信じて、ロータリーの中には私よりももっともっと色んなことを御経験されている企業のトップの方がおられます。僕に欠けているものは父親が早く死に私には相談する人もいません。　お願いです。　ご相談させてください。　そしてロータリーのなかで学ばせて頂きます。　今僕に必要な物がロータリーにあると信じれば（それは諸先輩方々ですが）少しは経営者として強くなれると思い、感謝と奉仕の言葉を信じて学んでいきますのでご御指導、御鞭撻のほど宜しくお願いします。
大切なお時間を御視聴頂きありがとうございました。

【本日のニコニコ】

- 本日、会員卓話を無事終えて　：和田　誠　さん
- 和田さんの会員卓話を拝聴して　：片岡 浩昌　会長
- 和田さんの会員卓話を拝聴して　：前山 佳裕　幹事
- 役員委員長就任挨拶を無事終えて　（役員）　：神原 太一　会計
- 〃　(理事)会員増強･維持･退会防止　：原　将嘉　さん
- 〃　(理事)プログラム　：森　英司　さん
- 甥っ子が四国ジュニアゴルフ選手権で優勝しました　：黒木 五朗　さん

【来訪ロータリアン】【メークアップ】（なし）

【出席報告】

第２２０９回例会　＜7月２７日(火)現在＞

会員総数	出席免除会員数	出席計算会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率
４１名	３名	３８名	２８名	１０名	73.68%

第２２０７回例会　＜7月１３日(火)例会分＞

会員総数	出席免除会員数	出席計算会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率
４１名	３名	３８名	２８名	１０名	73.68%

【８月　３日(火)の例会】　会 員 卓 話（会員増強･維持･退会防止委員会）

☆ ８月１０日(火)例会は「休会」です ☆

【８月１７日(火)の例会】　新入会員歓迎会＆暑気払い夜間例会（親睦委員会）

【オークラホテル丸亀1Fビアホール　午後7時~】

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。
具体的には、次の各項を奨励することにある。
第１．知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
第２．職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
第３．ロータリアン一人一人が個人としてまた事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
第４．奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて国際理解、親善、平和を推進すること。

MARUGAME　EAST　ROTARY　CLUB
例会場　オークラホテル丸亀　☎23-2222
〒763-0011　丸亀市富士見町3-3-50
事務所　オークラホテル丸亀４３０号室
TEL；0877-21-6611　FAX：0877-21-6655
URL；http://www.marugame-east-rc.com
例会日　毎週火曜日　PM12:30~PM1:30
E-Mail；merc@soleil.ocn.ne.jp